

平成29年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT29185 体感しよう！小さく生まれた子どもの命を救う・癒す・育てるケアの力-2017



開催日：平成29年8月27日
実施機関：山梨県立大学看護学部
(実施場所) (池田キャンパス・山梨県立中央病院)
実施代表者：井上みゆき
(所属・職名) (看護学部・教授)
受講生：高校生23名
関連URL：<http://www.yamanashi-ken.ac.jp/news/21319.html>

【実施内容の概要】

実施場所を新生児集中治療室(以下、NICU)に見立て、保育器、コット、超低出生体重児や新生児のモデル人形、低出生体重児用の衣類を展示し、開講前に、実際にモデル人形に触れてもらった。さらに、NICUがイメージしやすいようDVDなどの映像を使用し新生児医療を説明したのちに、実際のNICUに入り、命を救う・癒す・育てるケアを体験した。

【当日のスケジュール】

- 9:00-9:30 受付 NICU入室のための健康チェック NICUの模擬体験
- 9:30-9:50 開講式 オリエンテーション スタッフ紹介「科研の成果」講義
- 9:50-10:30 「NICU」で小さな赤ちゃんが育つ」講義
- 10:30-10:40 休憩 熱中症予防の水分補給 NICUまでは徒歩
- 10:40-11:30 参加者半数 NICU見学 /NICUを卒業した子どもの成長講義
- 11:45-12:35 参加者半数 NICU見学 /NICUを卒業した子どもの成長講義
- 12:50-14:00 ランチョンセミナー 自由な意見交換
- 14:00-14:30 出生時の処置・胸骨圧迫・人工呼吸の説明
- 14:30-15:00 出生時の処置・胸骨圧迫・人工呼吸の実習
- 15:00-15:30 学びのまとめ
- 15:30-16:00 修了式 未来博士号授与 アンケート記入・回収

【実施の様子】

実施場所を新生児集中治療室(NICU)に見立て、新生児ケアを模擬体験しました。



「科研の成果」講義

実施責任者:井上みゆき

高校生に分かりやすい言葉で講義をすすめました。



「NICU」で小さな赤ちゃんが育つ」講義

山梨県立中央病院: 根本篤医師

NICU の医師ユニホームを着ての白熱した講義でした。



「NICU を卒業した子どもの成長」講義

吉川由美子さん

体重 920gで誕生し高校生となったわが子の成長とその時の母としての気持ちを講義しました。

小さく生まれたお子さんを育てた経験から吉川さんがデザインした点滴用肌着に触れる高校生



「NICU・GCU 見学」

赤ちゃん・当日勤務している医師・看護師さんのご協力により説明を受けました。

NICU 看護師さんからの説明に真剣なまなざし！

GCU 看護師さんからの説明を聞く高校生

「一生懸命に生きる」小さな命の鼓動を感じました。

赤ちゃんかわいい！



「新生児モデル人形での出生時の処置、人工呼吸、胸骨圧迫の実習」

現役の NICU 看護師・医師のデモンストレーションと指導のもと実施しました。



人工呼吸のとき、マスクは「指」はCにして、
押さえてくださいね。



人工呼吸と胸骨圧迫は、お互い声を掛け合ってね、
ハイ、1・2・3 バッグ、1・2・3・・・



デモンストレーションと指導の後は高校生だけで実施です。



赤ちゃんの体、早く拭かないと・・・体温さがさがっちゃう



ええ・・・赤ちゃんの胸あがっている？！

「未来博士号授与」



みんな頑張りました。

「全員集合して記念写真」



最後はみんなで ハイチーズ

【事務局との協力体制】

事務局には広報活動、参加申し込み、連絡調整等の対応していただき、実施者は企画内容の準備に専念することができた。

【広報活動】

山梨県立大学のホームページへの掲示および山梨県内の高校へ本企画プログラムを郵送した。応募人数 25 名のところ、34 名の応募があった。しかし、当日連絡なしの欠席が 2 名いた。

【安全配慮】

1. NICU 見学に際して、感染予防のため高校生の健康チェックを次のように実施した。

①母子手帳で予防接種の確認 ②看護師と医師で、当日の体温測定と問診

2. 参加者、実施協力者が保険に加入するとともに、受講生 5 人に対して一人の割合で大学生を配置した。

3. 猛暑日のため、熱中症予防に備え、飲料水等を講義開始前と昼食時、2 回に分け配った。また受講生、実施者ともに自由にお茶等が飲める環境を整えた。

【今後の発展性・課題】

本企画は 4 年目を迎え、本プログラム内容の有効性が知れ、受講者、受講者の保護者、実施協力者から、子どもの生命の尊さを知る有効なプログラムであるため、来年度も継続してほしいとの要望が強い。また、応募人数 25 名のところ、34 名の応募があり、抽選とし参加できない高校生も複数人いる。

一方で、昨年からの申し込み後のキャンセルがあることから、今年度は募集要項によく日程、実施内容等を確認し、申し込む旨を記載した。さらに抽選にもれた方を対象にキャンセル待ちの順番を決め繰り上げて参加できるようにした。そのため、今年度はキャンセルがあっても、キャンセル待ちの高校生が参加できた。しかし当日連絡がなく 2 名が欠席した。キャンセルが出ないようにすることが今後の課題である。

【実施協力者】

12 名

【事務担当者】

岡本瑞希 山梨県立大学 池田事務室